

抄録の書き方

今年度も残り少なくなり、それぞれの職場で1年のまとめを行う時期がやって来ました。1年間の成果などを学術運動交流集会で発表し、交流を深めましょう。

抄録の書き方について

例年、学術運動交流集会では事前に抄録集を発行しています。これは、参加者があらかじめ発表内容の概略をつかみ、討論が深まるよう企画されたものです。

以下の要領で抄録の作成をお願いいたします。

1. 配布された書式に入力してください。
2. 学術的な研究発表では、「はじめに」「対象と方法」「結果」「考察」「おわりに」などがわかる構成が望ましいです。
3. 「はじめに」の項では、問題提起をして下さい。この研究がどういう意味を持つのか簡単に述べて下さい。
4. 「対象と方法」の項では、多職種にもわかるように研究方法を簡潔に説明してください。
5. 「結果」の項では、上記の方法で得られた結果（発表時点で明らかな結果のみ）を書いて下さい。見込みや思惑などは書かないで下さい。
6. 「考察」の項では、結果を基に、自分の考えを述べてもらって結構です。今後の課題等も述べて下さい。
7. 「おわりに」の項では、結論や強調すべき点を述べて下さい。この項は省略可能です。
8. 活動報告などの発表は、この形式に囚われる必要はありません。
9. いずれにしても、字数に限りがありますので簡潔にまとめることが大切です。

※2018年度より SDH の項目欄を追加しました。個別の症例報告などで SDH の考え方を
用いる場合は、該当項目に○をお願いします。

皆様の応募を心からお待ちしています。

2008年 1月 27日改訂
2018年 11月 14日追記